

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「海外大学に一番近い府立高校」として、校訓である「自主自律」「和親協力」のマインドを持ち、グローバルな視点で、高い志をはぐくみ、主体的に生きようとする「人生の物語を編める生徒」を育てる、生徒・教職員がともにチャレンジする学校

- (1) 幅広い知識と教養を身につけ、高い志で自らの将来を切り拓く力
- (2) グローバルな視野で、異なる文化・価値観を持った人々を理解し、協働する力
- (3) 現代の諸課題に向き合い、協働で最適解を求め、自ら考え、判断し、行動する力
- (4) 「自主自律」「和親協力」の心をはぐくみ、地域に信頼され愛される学校の取組みを進め、社会的貢献ができる力

2 中期的目標

1 確かな学力と高い志をはぐくみ、すべての生徒の第一志望進路の実現を図る

(1) グローバル科・普通科併設校の特色及び実績を活かして、生徒の学習意欲の更なる向上を図り、確かな学力を育成する。

- ア 学校での学びと家庭学習を効果的に結びつけ、高校生として必要な基礎学力の定着をはかる。
- イ 総合的な探究の時間を中心に学習活動全般で、社会人として通用する基礎的・汎用的能力の土台作りを行う。
- ウ 授業満足度(3項目平均)について、保護者アンケートにおける肯定的評価を令和5年度には80%以上とする。(H30:57%, R1:71%, R2:59%)
- エ 3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を策定する。

(2) 「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を重視した授業改善に取り組むとともに、希望する進路を切り拓く学力を育成する。

- ア 生徒による授業アンケート結果等の活用。授業の「めあて」の提示・「生徒の学習活動」・「振り返り」を全教科で実践し、AL型・PBL型の授業力向上を図る。
- イ 学力生活実態調査・基礎学力調査等を分析・活用し、生徒の希望する進路実現に相応しい学力養成に努める。
- ウ 国公立大学への進学実績を伸ばす。国公立大学合格者をR5年度には80名以上とする。(H30:50名, R1:58名, R2:55名)
- エ 海外大学進学説明会・交流会をより充実させ、国内外の関係機関との連携を深めて海外大学への進学をめざす生徒を支援する。
- ※ 3年生4月当初の希望する進路の実現達成率をR5年度には85%以上にする。[新規]
- ※ 海外大学進学希望者に対する合格者の合格率をR5年度には70%以上とする。(H30:63%, R1:50%, R2:75%)

2 あらゆる教育活動で「21世紀型スキル」発現の機会をつくり、生徒の主体性・資質・能力を育成する

(1) 学校における教育活動のあらゆる場面で、生徒の言語活動の充実を図る。

- ア 4技能を英語授業に毎時間組み込んだ授業展開と更なる英語教育の充実を図り、卓越した英語力をはぐくむ。
「骨太の英語力養成事業」の成果を踏まえ、バランス良い4技能の修得、英語でのプレゼンテーションやディベートを中心に英語教育の更なる深化を図る。
- イ CEFRを外部評価基準とし、英語学力調査をグローバル科及び普通科全体で継続し学力を伸ばさせる。
- ※ R5年度にはグローバル科2年生のCEFR B1以上:70%以上、B2以上:10%以上とする。(H30:B1 22%/B2 0%, R1:B1 35%/B2 0%, R2:B1 30%/B2 3%)
R5年度には普通科2年生のCEFR A2以上:100%、B1以上:15%以上とする。(H30:A2 94%/B1 6%, R1:A2 96%/B1 7%, R2:A2 97%/B1 7%)

(2) 教科教育・教科外教育活動のあらゆる場面で、デザイン思考ができる生徒を育成する。

- ア 「総合的な探究の時間」において、協働で探究のプロセスを繰り返し設定することで、生徒一人ひとりがSDGsの視点も踏まえ、課題に関連し自己の在り方生き方を真剣に考える学習活動を展開し、各教科等で身に付けた資質・能力等を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。「探究学習」の成果を広く全国に発信する。
- イ ロジカルシンキング・クリティカルシンキング思考を学び、そのスキルを習得できるよう「総合的な探究の時間」を中心に実践を広げ、通常授業へ順次導入していく。
- ※ R3年度 学校経営推進費活用による「クリエイティブな環境でデザイン思考を育成する」プロジェクト
- ウ 海外研修や修学旅行についても、事前事後学習も含む全過程を通じてデザイン思考成果発表へとつなげる。
- エ 1人1台端末の導入に向けてICTを活用した取組みを組織的に推進する。
- オ 「3つのポリシー」「関連単元配列表」を有効活用し、更なるカリキュラムマネジメントの充実と新教育課程編成をめざし、教科の枠を超えた学びを実践する。

(3) 多様性への理解・共感力をはぐくむ。

- ア 大阪大学・立命館大学いばらきキャンパス他の留学生との交流会を企画・立案・実施し、異なる文化・価値観への共感力と英語コミュニケーション能力の向上を図る。
- イ 夏期海外研修、海外大学説明会・交流会、スタディツアーなどで英語教育や国際化教育の機会を充実させる。

3 「自主自律」「和親協力」の心をはぐくみ、豊かな人間性を涵養する学校づくり

(1) 教育相談、保健教育、人権教育をさらに推進し、安全で安心な学びの場づくりを推進する。

- ア 教員とSCの協力のもと、全教職員で教育相談を充実させ、生徒が相談しやすい環境づくりを促進する。
- イ いじめを根絶すべき重要課題と認識し、未然防止、早期発見、組織的対応に取り組む。
- ウ 災害や事故に備えてマニュアル整備や情報提供システムを整備し、実行性のある自然災害等に備えた体制を確立する。
- エ 食物アレルギー対応委員会を中心に、校内研修等を通じて、食物アレルギー等に係る事故防止に努める。
- オ 新型コロナウイルス感染症に関しては「子どもの安心・安全の確保」「学びの保障」「人権尊重の教育の推進」「教職員の負担軽減」の4観点を踏まえ長期的な対応に努める。
- ※ 学校自己診断における「教育相談」(生徒)の「肯定的評価」をR5年度には72%以上とする。(H30:58%, R1:65%, R2:64%)、「いじめ対応」(生徒)の「肯定的評価」をR5年度には90%以上とする。(H30:77%, R1:83%, R2:85%)、「災害時の情報提供」(生徒)の「肯定的評価」をR5年度には65%以上とする。(H30:50%, R1:57%, R2:64%)

(2) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立を進める。

- ア 基礎的な生活習慣の定着を進める。
- イ 生徒会を中心とした、自主的な活動を推進する。
- ウ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿い、生徒の自主活動や部活動と教職員の働き方とのより良いバランスを実現する。
- ※ 年間遅刻者数をR5年度にはのべ3,300名までに削減する。(H30:4,781名, R1:5,374名, R2:6,372名)、学校教育自己診断における「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」(生徒)の「肯定的評価」をR5年度には88%以上とする。(H30:79%, R1:81%, R2:81%)

(3) 地域との連携を推進し様々な機会を通じて情報発信と協働を行う。

- ア 生徒会や部活動を中心に地域のイベント、清掃活動、ボランティア活動等に参加し、地域への協力を進める。
- イ HP等の電子媒体、リーフレット等の紙媒体及び学校説明会等広報活動を通じて、情報発信の更なる充実を努め、本校への理解の向上を図る。
- ※ 本校学校説明会・見学会のべ参加者をR5年度には2,500名以上とする。(H30:2,420名, R1:2,237名, R2:1,900名)【開催できなかったオンライン学校説明会申込者数を含む】

4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み

(1) 教科会議・研修の充実・相互授業見学の充実・経験年数の少ない教員研修の充実、個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担による学校組織力の向上を図る。

- (2) 「働き方改革」を推進し、教職員の安全及び健康の確保、職場環境の改善を図る。
- ※ ストレスチェックによる「健康総合リスク」の値を、府立学校平均以下を継続する。(H30:104, R1:94, R2:92)

(3) 開かれた学校づくりを推進し、生徒・保護者に信頼され、地域中学生に憧れられる学校をめざす。

- ア 個人情報の適正管理・学校会計事務の適正化に努める。
- イ 学校説明会・見学会の積極的実施及び本校ホームページを活用した最新の学校情報の発信に努める。
- ウ 地域と連携した事業の展開を図り、地域とともに成長する学校をめざす。
- ※ HP更新回数の100回以上の継続及び学校自己診断における「教育情報の提供」(保護者)の「肯定的評価」をR5年度には90%以上とする。(H30:70%, R1:83%, R2:86%)

HPのアクセス数をR5年度には20,000以上とする。(H30:5,850, R1:8,190, R2:13,000)【R2年度は1月現在】

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>学校教育自己診断に関するアンケート調査結果について</p> <p>「学校教育自己診断」を12月に実施し、632名(61.4%)の保護者の皆さまから回答をいただきました。生徒実施分927名(90.0%)とあわせて結果とそのまとめを報告します。</p> <p>昨年同様に肯定的評価が大半でありましたが、個々に見ると改善を要する項目や、より力を入れていかねばいけない項目もあります。例えば、学校生活全般で見ると「箕面高校に入学して良かった」では生徒・保護者とも約93%の肯定的評価、「学校行事の活発さ・楽しさ」では生徒・保護者とも93%以上の肯定的評価でしたが、「授業はわかりやすく楽しい」についての肯定的評価は生徒約78%、保護者約68%と、まだまだ改善の余地があります。他方、「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定的評価は生徒96%、教員100%に見られるように、既習の「知識・技能」を活用し「思考・判断・表現」の力をはぐくむ授業改善が進められています。これらの学習を粘り強く繰り返し、自らの学習の調整を続けることで「学びに向かう主体性」もはぐくまれていきます。これは「Content-base」から「Competency-base」へと転換した新学習指導要領の理念にも合致するもので、さらに推進・深化させていきます。</p> <p>生徒・家庭との連携に関する項目の、生活指導面では、生活規律や学習規律の指導に関する評価は、保護者・生徒とも8割以上の肯定的評価でした。他方、「子どもの心身の健康や進路について気軽に先生に相談できる」、「生徒の進路に関して家庭との連絡・連携がとれている」、のいずれも保護者の肯定的評価は7割に届きませんでした。今後とも、ご家庭との連携をさらに密にしていくよう努めてまいります。</p> <p>高校の3年間を通じて豊かな人間性を培い、勉学・クラブ活動に自主的に取り組み、将来の進路を生徒一人ひとりが実現できることを目標に、より一層生徒をサポートできる体制の確立をめざしてまいります。</p> <p>=====生徒アンケート調査結果のまとめ=====</p> <p>1. 学習について</p> <p>「箕面高校に入学してよかった」「箕面高校に行くのが楽しい」と9割以上の生徒が肯定的評価をしてくれています。しかし、「授業はわかりやすく楽しい」についての肯定的評価は生徒約78%と、まだまだ改善の余地があります。</p> <p>わかりやすく楽しい授業となるよう研修・研究授業・相互授業見学等を行い授業改善を進めていきます。他方、58期59期学力生活実態調査のデータ(自宅学習時間抜粋)を見ると、1年生 家庭学習1時間未満 67.7% しない 23.5% / 2時間以上 18.8% 2年生 家庭学習1時間未満 72.4% しない 28.7% / 2時間以上 16.4% となっています。生徒の皆さんも毎日2時間以上の家庭学習時間を確保して欲しいと思います。</p> <p>学習についての項目で、「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」の肯定的評価が86%ありました。生徒の皆さんが、授業や自学自習を行うなかでわからない問題に出会ったとき、教員に質問に行く習慣、その際教員が丁寧な指導をしていることが伺えます。また、評価の仕方や基準について、事前に示されている(94.2%)と全体でも肯定的評価が高く、授業時のアウトプット活動の充実や評価の工夫が見られます。さらに、「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定的評価は生徒96%に見られるように、箕面高校では、受験に対応する高いレベルの授業内容を保ちながら、生徒たちが既習の「知識・技能」を活用し「思考・判断・表現」の力をはぐくみ自ら考え、自ら学ぶ姿勢を養う授業改善が進められています。これらの学習を粘り強く繰り返し、自らの学習の調整を続けることで「学びに向かう主体性」もはぐくまれていきます。これは「content-base」から「Competency-base」へと転換した新学習指導要領の理念にも合致するもので、さらに推進・深化させていきます。</p> <p>2. 進路指導について</p> <p>「先生方は、進路についての情報を知らせてくれる」(肯定的評価 93.3%)、「将来の進路や生き方について考える機会がある」(肯定的評価 94.3%)、「先生方は、進路に関して丁寧に指導してくれる」(肯定的評価 89.3%)の肯定的評価は昨年度よりそれぞれ約6ポイント上がって高いものでした。</p> <p>今年度は、「多様な進路選択にチャレンジする生徒、その環境づくりに教職員もチャレンジ」を理念に「ホンモノ」に出会い、感じる場づくりの一環としてPTA共催 道上達広先生(25期生)講演会(7/9生徒向け・保護者向け)、生徒・保護者同日参加型進学講演会の全学年実施(対面・200Mのハイブリット開催)、京都大学理事・副学長 村上章氏による京都大学見学会・講演会を実施しました。国公立大学後期入試粘り強く受験勉強を続ける生徒が増えて来ている傾向にあり、今年度57期生も、共通テスト志願者増、指定校推薦志願者減とその傾向が続いています。</p> <p>来年度以降、コロナで延期となった大阪大学大外国語学部・神戸大学の見学会・講演会、大阪公立大学ラボ見学等を企画・実施し、学校を挙げて「21世紀型スキル」発現の機会をつくり、生徒の皆さんの主体性・資質・能力を育成できるよう努めてまいります。</p> <p>3. 行事、部活動、生徒指導について</p> <p>教育は、教科教育活動と教科外教育活動の両輪で子どもの人間的発達に働きかける営みです。箕面高校では、教科外教育活動＝学校行事・部活動・HR活動等を「自主自律」「和親協力」の校訓のもととても大切にしています。</p> <p>コロナ禍で一定の制限こそありましたが体育祭・文化祭、2年生の沖縄修学旅行を昨年・</p>	<p>【令和3年度 第1回学校運営協議会 令和3年7月27日(火)実施】</p> <p>○前回の協議会以降、保護者からの意見書の提出はなかったことを報告させていただく。</p> <p>令和3年度学校経営計画について</p> <p>○令和2年度学校経営計画における「めざす学校像」・「中期的目標」に関して満場一致で承認された。</p> <p>○今年度のキーワードは「人生の物語を編める生徒」を育てること。社会で求められる資質・能力と合致するか。2030年の未来社会に向け、自己実現できるか、生活できるかが重要である。</p> <p>○今年度「学習指導室」を設け、SGH・SSHのような探究的な学び、課題解決力や思考力を身に付ける学びを実現できるよう、組織的な授業改善に取り組んでいる。</p> <p>○外部リソースを活用し、本物と出会う場を設定することに力を入れている。PTA主催の進路講演会実施や、企業との協力もあった。海外大学に一番近い府立高校として、海外大学に通う卒業生30人程度による交流会も開催した。</p> <p>○箕面市との交流はこれまであまりなかったが、今後は連携していきたい。</p> <p>○意見・質問等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の社会で必要な力を付けるためには、いろんな選択ができることが重要。現状では0.02%の社会しか見ることができていない。世界は広いので、もっと視野を拡げることが必要である。 ・10年後にどんな仕事が残っているのか予測できないような状況であるからこそ、今からしっかり備えておくことが必要。 ・箕面高校では、生徒が強い志で頑張ることができるよう環境を整えてくれており、いろんな面で恵まれている。 ・箕面高校の自由な校風も一時は萎んでいたようだが、この校風は今後も受け継がれていくだろう。自主性を発揮できる生徒たちは幸せである。 ・社会が何を求めているのか、わかりにくい世の中。教員が環境づくりを行い、生徒は伸び伸びと取り組むが、結局は自分の力で切り開いて自分で答えを見つけるしかない。 ・よりよく生きるための力を高校3年間だけで身に付けるのは無理がある。中学校から6年間、あるいは小学校から続けてもよい。オリンピック選手のように、追い込まれても精神力・平常心を保つことができる生徒を育ててほしい。 ・海外大学に最も近い府立高校として、TOEFLのような留学につながるテストへの取組みについて、今後の検討を期待。 <p>令和4年度使用教科用図書の選定状況について</p> <p>○選定理由書のとおり、5つの観点から適正に選定されていることを報告させていただく。</p> <p>○意見・質問等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程となる次年度1年生の教科書選定がどのようになるか楽しみ。今回何か目立つようなことがあれば教えていただきたい。 ⇒新教育課程における、特に新たな教科・科目への対応がポイント。生徒たちに21世紀型スキルを身に付けさせることを考え、各教科において選定している。 ・例えば小学校ではQRコードを使った新しい教科書による授業の取組みが行われ、理科や英語の授業もずいぶん変わってきていると聞いている。高校においても新たな取組みに期待したい。 ・中学校においては自治体で一括して共通の教科書を選定しているが、高校においては、例えば数学の教科書発行者が学年によって異なるようなことはあるのか。 ⇒学年によって異なることもありうるが、すべて教科ごとに、最終的には学校として責任をもって選定している。 <p>令和3年度の進路実績について</p> <p>○意見・質問等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通テストの導入やコロナの影響で大学の選び方に変化はあったか。 ⇒指定校募集が多かった。不安感や安全志向が働き地元の近隣校を選ぶと思っていたが、地方の国公立大学など第一志望に向けて頑張っていた生徒も多かった。 ・新しい取組みなど進路指導に力を入れたことはあるか。 ⇒何を学ぶために大学に行くのかを考えさせる機会や、難関大学の見学会など本物に触れさせる機会を多く設けている。 ・コロナの影響で大学入試自体も実施されるのか不安だった。出願状況も変化している。箕面高校では変化がなかったようだが、普段からどのように指導されているからか。関東の大学を志望する生徒もいるが何か特別な理由はあるか。 ⇒校内の連携を強化し、生徒・保護者の両方に説明を行った。進路指導三者面談では、どの大学に行きたいか、生徒にプレゼンテーションさせた。その中で、関東の大学を志望する者も一定数いた。

府立箕面高等学校

今年とほぼ予定通りに実施しました。箕面高校のようにコロナ禍のなか2年連続実施できた府立高校は数校しかなく、生徒の皆さん、支援・理解いただいた保護者の皆さま、そして私たち教職員が生涯にわたって誇りをもてることだと思っています。

「学校行事（体育祭、文化祭）は楽しく行えるよう工夫されている」（肯定的評価 95%）、「ホームルーム活動は活発である」（肯定的評価 86.7%）、「生徒会を中心とした自主的な活動が活発で、活動の大小を問わず、社会貢献活動に関わることは大切だと思う」（肯定的評価 91%）と、箕面生の学校行事や HR 活動への満足度は高く、部活動の加入率の高さとあわせて充実した学校生活を送っていると考えられます。「学習と部活動の両立」については「ノークラブデー」の在り方を工夫し、有効活用することで自学自習の時間の充実と部活動の活性化につなげていきたいと考えます。

「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定的評価は 80.3%と、学校のルール遵守への指導の理解も進んでいると考えます。他方、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」の肯定的評価は 67.9%と比較的低く、校内教育相談室体制の周知に努めるとともに、カウンセリングマインドをもった生徒指導の充実を図っていききたいと考えます。

4. 全般について

「学校に行くのが楽しい」「入学してよかった」と評価する生徒は約 9 割以上と、楽しく充実した学校生活を過ごしている様子が伺われます。しかし、個別に不満や悩みも持っている生徒がいることは、アンケートの記述等からも読み取れることから、さらに細やかな指導を行い、すべての生徒が入学してよかったと思えるように努力してまいります。

また、箕面高校のホームページを見ている（45.4%）、箕面高校で事件・地震や火災などが起こった場合の行動について情報提供されている（56.0%）と肯定的評価が低く、コロナ禍自粛せざるを得なかった防災訓練の再開や、さらなる情報提供及び共有の工夫が必要であると考えます。

=====保護者アンケート調査結果のまとめ=====

1. 学習について

学習面では、「学習評価の仕方は納得できる」について 91.6%の肯定的評価をいただきましたが、「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」についての肯定的評価は 67.7%でした。生徒アンケート「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定的評価 96%に見られるように、箕面高校では、受験に対応する高いレベルの授業内容を保ちながら、生徒たちが既習の「知識・技能」を活用し「思考・判断・表現」の力をはぐくみ自ら考え、自ら学ぶ姿勢を養う授業改善に取り組んでいます。これらの学習を粘り強く繰り返し、自らの学習の調整を続けることで「学びに向かう主体性」もはぐくまれていきます。これは「Content-base」から「Competency-base」へと転換した新学習指導要領の理念にも合致するもので、さらに推進・深化させていきます。

さらに、「ホンモノ」に出会い、感じる場づくりの一環として来年度も PTA 共催 生徒・保護者同日参加型進学講演会の全学年実施、京都大学理事・副学長 村上章氏による京都大学見学会・講演会、今年度コロナで延期となった大阪大学大外国語学部・神戸大学の見学会・講演会、大阪公立大学ラボ見学等を企画・実施し、生徒の皆さんの学習意欲、高い志を持った進学意欲の醸成に努めてまいります。

2. 進路指導・行事活動・部活動・生活指導について

進路指導面では、「将来の進路について適切な指導を行っている」について 83.5%の肯定的評価をいただきましたが、「進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている」についての肯定的評価は 62.2%と低く、一般的な進路情報をお知らせするだけでなく、生徒一人ひとりの状況に応じた進路指導が一層必要と考えます。

学校行事への満足度は高く、学習とともに教育活動の柱であるとの認識を学校と共有できていると考えられます。

生活指導面では、「箕面高校の生徒指導の方針に共感できる」について 86.2%、「箕面高校の生徒指導の方針は、保護者に示されている」については 78.7%の肯定的評価をいただきました。引き続き、家庭との連携をより密に行っていきたいと考えます。

学校のホームページ閲覧状況について、ご覧になられている保護者が 60.2%でした。1月17日現在 201 回のホームページ更新に加え、84,083 回の閲覧がありました。保護者の皆さまに、学校での取り組みの様子をより詳しくお伝えできるよう、さらに改善を進めてまいります。

3. 全般について

箕面高校に入学させてよかった（92.6%）、箕面高校の学校行事（体育祭、文化祭等）は活発である（93.3%）と肯定的評価が高い項目もありますが、学習の内容や進度等を懇談や通信などによって知ることができる（59.3%）、箕面高校のホームページを見ている（60.2%）という肯定的評価の低い項目もあるため、今後情報発信や共有の工夫改善に努めてまいります。

・今の子どもたちはあまり遠くに行きたがらない。親から巣立つという意味でも、幅広い進学実績づくりをどんどん進めていってほしい。

・大学へ行く目的を考える機会を設ける取組みや大学の実際の姿に触れられる機会は大変貴重で、高3受験生の親として羨ましい限り。

【令和3年度 第2回学校運営協議会 令和3年11月26日（金）実施】

○前回の協議会以降、保護者からの意見書の提出はなかったことを報告させていただく。

○令和3年度使用教科用図書の報告に関して満場一致で承認された。

授業見学

○骨太英語（2年グローバル科）、物理基礎（2年普通科）、現代文B（3年普通科）

令和3年度学校経営計画進捗状況について

○英検 S-CBT の学校全体受験を実現。昨年度実績として、CEFR の目標値に十分到達している。

○学習指導室と国際係が連携のうえ、プレゼンテーションのジャッジやアドバイザースタッフとして近隣大学から留学生を招聘することにより、生徒の英語力向上につなげたい。

○府立高校において今年度1人1台端末が導入され、学校としても活用促進を推進することが今後の課題。

○グローバル科「舞台は世界」、普通科「決め手は探究」をスローガンとして、対外的にも発信。

○観点別学習状況評価については、カリキュラムポリシーを策定し、学識経験者の助言をいただきながら、より良い形で実施できるよう進めているところ。

○授業改善に向けて、授業公開月間を活用しながら教員が相互に学ぶ取組みを実践。「MINOH STYLE」を学習効果測定ツールとして形成的に評価し、自らの授業改善に活かしている。

○意見・質問等

・教員一人ひとりの強みを見付け引き出す方法として、何か実践されていることはあるか。
⇒ 強みのある教員に学年主任や分掌長を依頼したり、よい点をほめて気持ちよく働いてもらうことを心掛けたり、経験年数の少ない教員にも様々なポストに就いてもらって調整力を育成したりしている。

⇒ 授業観察後にフィードバックするシートは、とても重要と考えている。

⇒ できる限り声掛けをして、円滑なコミュニケーションを図っている。

・先生方は遅くまで残って仕事をされているのか。

⇒ 遅くまで残っている教員もいるが、管理職が率先して早く退勤することを心掛けて「働き方改革」を推進しており、最近では遅くまで残る人は減ってきている。タイムマネジメントが重要。勤務時間内に優先順位をつけて業務にあたることが大切。自分の健康のため、家族のために休暇を取ることも「お互い様」と思える同僚性の高い職場をめざす。

・仕事を評価してもらえると、教員はやりがいが出てくる。評価してもらうのはとても大事なことです。

令和4年度教育課程について

○意見・質問等

・7限授業によって部活動の時間が減って困るとの意見は出ていないか。

⇒ 特に出していない。クラブをやりたいという意見も若干あるが、進学保障に向けての意識が高い。

・教育課程は、各学校において編成しているのか。

⇒ 校長が編成権をもち、学習指導要領に基づき、各学校において編成している。原則として、入学年度から卒業まで教育課程が変更されることはないが、やむを得ない理由がある場合は、協議のうえ途中変更が認められることもある。

・文理選択はいつから？

⇒ 2年生の最初から。1年生6月の仮調査で文理を分け、11月の本調査で確定。

⇒ 本校では、グローバル科でも理系選択ができることが大きな特徴。

質疑応答及び協議・助言

○意見・質問等

・今後の教育活動において、BYOD（私用デバイスの利用）を検討しているか。

⇒ 現在の1人1台端末ではスペックが不十分なところがあるので、よりよいものが導入されることを期待している。

【令和3年度 第3回学校運営協議会 令和4年2月18日（金）実施】

○前回の協議会以降、保護者からの意見書の提出はなかったことを報告させていただく。

令和3年度学校教育自己診断結果報告・令和3年度学校経営計画にかかる学校評価について

○「授業はわかりやすく楽しい」についての肯定的評価は生徒約 78%、保護者約 68%と、まだまだ改善の余地がある。

○「生徒の進路に関して家庭との連絡・連携がとれている」の保護者の肯定的評価は7割弱、「学習の内容や進度等を懇談や通信などによって知ることができる」は約6割と低かったため、改善が必要。

府立箕面高等学校

○海外大学に最も近い府立高校として、さらに英語力を高めるための取組みを進めていく。
○コロナ不安で不安を抱えている生徒が多く、スクールカウンセラーとも連携のうえ、学校全体でしっかりと支援していきたい。

○ホームページの閲覧回数がアップしているが、生徒・保護者にあまり見てもらえていないので、もっと工夫が必要。

令和4年度学校経営計画について

○箕面高校の生徒に、3年間の教育を経て卒業するときどのようなコンピテンシー（資質・能力）を付けさせるのかということをつまみ、「めざす学校像」でディプロマ・ポリシーを示している。

○箕面高校のディプロマ・ポリシーについてはここ1～2年をかけて議論し、その納得解のもと、生徒を育てるために各教科でどんな学びを作っていくかというカリキュラム・ポリシーについて、現在議論を進めているところ。

○これらのことをつまみ、令和4年度学校経営計画策定にあたり、学校運営協議会の承認をいただきたい。

令和3年度ストレスチェック結果より

○仕事の負担は府全体の平均を少し下回っており、裁量性は少し上回っている。つまり、自分たちの裁量で仕事に取り組んでいるということ。

○とはいうものの、昨年度に比べて負担感は少し増えている。新学習指導要領をつまみ観点別学習状況評価の取組みなど、新たなチャレンジが少し負担として数字に表れているのかもしれない。

○一方、職場の支援は、上司の支援（管理職だけではなく分掌長等も含めて）が昨年度よりも良くなり、同僚性の高さが表れている。

○総合健康リスクは、数年前まで非常に高かったと聞いている。それに比べると、最近教職員の働き方改革について一定改善が進んでいるといえる。

質疑応答及び協議・助言

○学校教育自己診断の生徒への質問で、「授業はわかりやすく楽しい」という質問に対して8割近い肯定的回答が得られているが、楽しければいいとも言いきれない。難しいところを乗り越えていったときの楽しさというのが本来。箕面高校の場合は取り組むしんどさがあってもいいと思うので、その部分をアンケートの質問に反映してみてもどうか。

○生徒アンケート回答の選択肢が4択だが、肯定・否定で割り切れない場合もある。
⇒ 保護者アンケートには、いただいたご意見をつまみ、「わからない」の選択と記述欄を付けている。

○保護者の方が授業見学される機会はあるか。

⇒ コロナで実施できていない。

○授業がわかりやすく楽しいという点について、先生方の共通認識はどうか。

⇒ 授業の観点は各教科で若干の差異があり、何をもち理解し自己肯定感が高まったかという尺度は異なる。模試や定期考査の成績だと数値化されるのでわかりやすいが、感情の面や自己肯定感はなかなか数値化できないので、尺度の差は生じる。そういった意味では、勉強だけではなく行事などをおして、より生徒の成長を感じることができるのは、担任や学年の教員ならではのところ。

○生徒アンケート「先生方は学校の教育方針をわかりやすく伝えている」が前年と比べてかなり大きく上昇しているが、このあたりの工夫は。

⇒ 昨年度から学識経験者の協力を得て、箕面高校でどんな生徒を育むのか、そのために何をすべきかを議論し、生徒たちに問いかけているところ。その成果が数値となって表れたのでは。

⇒ 授業で生徒たちが成長する姿をイメージし、めあてを考えるようになってきているので、生徒たちにもそれが伝わってきている感がある。

○学力面だけではなく心も成熟していないと、先生方の意図するところは生徒たちになかなか伝わらない。そういった意味では、箕面高校のレベルが人間性の面でかなり高いと感じる。

○ここ数年、箕面高校はすごく安定感があり、先生方も頑張っておられるので、すばらしい。先生方が自らの裁量で取り組んできたことが、今の箕面高校のよさにつながっている。

○箕面高校はどうしてもグローバル科や英語が目されるが、普通科でも同様に探究活動の充実を考えてもらっていることがありがたい。グローバル科で取り組んでいることが全体に良い影響を与えているのでは。

⇒ グローバル科創設当時は2クラスで取り組めることにも限りがあったが、先生方との協力により、普通科にもグローバル科の良いところを広げつつ協力しているという実感がある。

○グローバル科の生徒で留学を希望している生徒は何割くらいか。

⇒ 興味関心のある生徒の割合は非常に高いと思う。幸いグローバル科の生徒たちだけでなく普通科の生徒たちの割合も非常に高く、たぶん半数を超えているのでは。

○普通科2年生の英語で、CEFRでB1以上の割合が上がっており、傾向がはっきりしていると拝見したが、C1はなかなか出ないのか。

府立箕面高等学校

- ⇒ 若干名だが高い英語力のある生徒がおり、これからが楽しみ。
- そのような高い英語力を有する生徒は以前からいたのか。
- ⇒ 国際教養科時代にもおそらくいたと思うが、さらに高まったように感じる。グローバル科という名称の影響もあるのかもしれない。
- 留学生の派遣以外でも、高大連携の取組み計画があれば、ぜひお手伝いさせてもらいたい。
- ⇒ 今年度 LETS10 校合同発表会やインターナショナル・フェスティバルに生徒たちが参加したが、生徒たちの頑張りをサポートするために TA に入ってもらったり、大学の先生から課題研究につながるようなお話をいただいたり、そういった支援をいただけたらいいんありがたい。
- 集団の中で意欲的に取り組む生徒がいる一方、不登校傾向の生徒に対するケアは如何か。
- ⇒ 1人1台端末やネットワークも活用し、諸連絡や学習保障、心のケアが可能。
- アンケート結果を見ると、教員のホームページ活用は97%だが、生徒は45%しかない。生徒には先生の頑張りがあまり伝わっていないので、ここを何とかしないといけない。何か考えていることはあるか。
- ⇒ プラットフォーム改善や情報収集だけではなく、SNSを活用した情報発信をめざしている。次年度くらいに何らかの新しい形を提案できればと考えている。
- ⇒ ホームページを見ていない高校生でもスマホは常時使っているだろうから、そこがうまく繋がればよいと思う。
- ⇒ 部活動のページがあまり充実していないので、今後広報に力を入れたい。
- 令和4年度学校経営計画を、学校運営協議会として承認する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
-----------	----------	-------------	-------------	------

府立箕面高等学校

<p>1 確かな学力と高い志を はぐくみ、すべての生徒の 第一志望進路の実現を図る</p>	<p>(1) 生徒の学習意欲の向上、確かな学力の育成を図る。 ア 学習習慣の定着。 イ 基礎的・汎用的能力の育成。</p> <p>ウ 授業満足度の向上。</p> <p>エ 3年間を見通した学習指導及び進路指導計画の策定。 (2) 授業改善及び希望する進路を切り拓く学力の育成。 ア 授業アンケート結果等の活用。授業改善。 イ 希望する進路実現に相応しい学力の養成。</p> <p>ウ 国公立大学への進学実績の伸長。</p> <p>エ 海外大学進学説明会の充実。海外大学に進学をめざす生徒支援。</p>	<p>(1) アイ・学習指導室を中心に、授業と自学・自習をバランス良く実施し、基礎学力の定着をはかる。</p> <p>ウ・学習指導室を中心に、授業アンケート(7、12月)の課題把握と成果検証、教職員へのフィードバックを実施し、授業改善に結びつける。</p> <p>エ・3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を策定する。</p> <p>(2) ア・授業アンケート結果等を参考に、自己・教科の振り返りを行い、授業改善に努める。 ・授業の「めあて」と「生徒の学習活動」、「振り返り」を全教科で実践し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善を推進する。 ・先進校視察、外部講師による講習会の参加、校内外の優れた実践事例の研修等を通し、指導法を研究し、共有する。</p> <p>ウ・地方国立大学等の情報を生徒・保護者に発信する。</p> <p>エ・海外大学進学説明会をより充実させ、国内外の関係機関との連携を深め海外大学への進学をめざす生徒を支援する。</p>	<p>(1) アイ・授業アンケート「授業に対する生徒の取組み1」(必要な予習や復習)を3.1以上[2.9]。また、「授業への興味・関心を持つ」「知識・技能が身につく」を平均で3.4以上[3.2]</p> <p>ウ・自己診断 学習指導の保護者アンケート(3項目平均)における「肯定的評価」77%以上[74.5%]。 ・12月の授業アンケート学校平均(生徒意識1・2)3.4以上[3.2]。</p> <p>エ・「将来の進路や生き方について考える機会がある。」「進路に関して丁寧に指導してくれる。」の肯定的評価93%/87%以上[90%/84%]。 (2) ア・授業満足度77%以上[74%]。</p> <p>・先進校視察・研修、専門書読書会等での学びを全体にフィードバックする機会を年5回実施する[4回]。 ・希望する進路の実現達成率80%以上[新規]</p> <p>ウ・国公立大学合格者を63名以上とする[55名]。 ・国公立大学理系学部のラボ見学等を1回以上実施する。[新規]</p> <p>エ・海外大学進学希望者対象説明会を年間5回以上開催の継続、うち1回は府立学校への公開実施[2回]。 ・海外大学進学希望者に対する合格者の合格率を80%以上とする[75%]。</p>	<p>(1) アイ・(必要な予習や復習)3.0 (△) 家庭学習を習慣づけるために予習・復習が必要となる授業に取り組んだが目標達成には至らなかった。宿題等が多くなり過ぎ生徒に過重な負担がかからないよう、一日の宿題量を調整することで改善を図る。 授業アンケート8、9で、3.2(△) 興味・関心を喚起し、学習内容の定着を図るよう授業改善に努めてきたが、生徒評価は昨年度と同じだった。来年度は、パフォーマンス課題を導入する教科・科目もあり、更なる授業改善をめざす。 ウ・自己診断の学習指導の保護者アンケート(3項目平均)における「肯定感」73%[74.5%](△) コロナ禍で保護者対象の授業見学が実施できなかったため、高い評価にならなかったと考えられる。コロナの収束状況にもよるが、実現の可能性を探って授業見学の機会を持ちたい。 12月の授業アンケート学校平均(生徒意識1・2)3.2(△) 生徒意識2(学習への取組み)は3.4と目標に達していたが、1(必要な予習や復習)は3.0と低い値であった。(1) アイに記載した改善を図る。 エ・「将来の進路や生き方について考える機会がある。」「進路に関して丁寧に指導してくれる。」の肯定的評価94%/89%で目標以上(◎) (2) ア・授業満足度78%で目標以上(◎) ・6回実施で目標以上(◎) ・希望する進路の実現達成率52% 大阪大学・神戸大学見学会・講演会がコロナ禍実現しなかったこともあり、高い志で希望する進路実現に最後まで粘り強く取組ませることに到らなかった。来年度は今年できなかった企画を実現させ、生徒たちのマインドセット・モチベーションの向上に努める。(△) ウ・国公立大学合格者61名 地方国立大学後期試験まで粘り強く取組む生徒が増え、昨年度より増加したが、目標には達成しなかった。希望する進路の実現達成率と同様の取組みを行う。(△) ・ラボ見学はコロナ禍で実施できず。大阪市立大学を予定していたがコロナ禍で実現しなかった。(一) エ・本校卒業生・教員による海外大学進学交流会を、大阪府立学校の生徒・保護者、教員対象に7月12日にはオンライン(ZOOM)、12月23日には対面で実施、参加者の91%が大変満足と評価も非常に高かった。さらに、海外進学説明会を7回実施、ヨーロッパの大学進学も視野にベルギーとオンラインで結び進学事情の説明を受けるなど内容の充実も図られ、目標以上。(◎) ・海外大学への進学合格率 %。 ()【7月末に確定】</p>
---	--	---	--	---

府立箕面高等学校

<p>2 あらゆる教育活動で「21世紀型スキル」発現の機会をつくり、生徒の主体性・資質・能力を育成する</p>	<p>(1) 生徒の言語活動の充実を図る。 アイ 卓越した英語力をはぐくむ。</p> <p>(2) デザイン思考ができる生徒の育成。 ア 「探究学習」を主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。 イ 「探究学習」の思考法の授業への導入。 ウ 海外研修や修学旅行の取組みでデザイン思考をはぐくむ。</p> <p>エ ICTの推進 オ 教科の枠を超えた学びの創造・実践。</p> <p>(3) 多様性への理解・共感力をはぐくむ。 ア 異なる文化・価値観への共感力の向上。</p> <p>イ 英語教育や国際化教育の機会の充実。</p>	<p>(1) ア・広がる英語教育推進プロジェクトと教科内相互授業見学による研鑽より4技能教授スキルと授業プロセス改善に取り組む。 ・MINOH ENGLISH VILLAGEの実施。 イ 国際グループを中心に、統合的な英語評価(CEFR)を行い、その現状分析と課題の把握を継続し、今後の方向性と課題解決策の策定作業を英語科とともに取り組む。 (2) 「<u>学校経営推進費</u>」事業を活用し、クリエイティブな環境でデザイン思考を育成するプロジェクトを実施する。 ア・SDGsの視点も踏まえた「総合的な探究の時間(Link)」の充実。フィールドワーク、大学生・院生等のTAも活用する。 イオ・「3つのポリシー」「関連単元配列表」を有効活用し、更なるカリキュラムマネジメントの充実と新教育課程編成をめざし、教科の枠を超えた学びを創造し実践する。 ウ・海外研修や修学旅行の目的・企画・実施については、学校経営計画を踏まえた取組みとする。</p> <p>エ・授業にICTを効果的に取り入れ、生徒の学びの深化を図る。</p> <p>(3) ア・大阪大学・立命館大学いばらきキャンパス他の留学生との交流会を企画・立案・実施し、異なる文化・価値観への共感力と英語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>イ・夏期海外研修、海外大学説明会・交流会、スタディツアーなどで英語教育や国際化教育の機会を充実させる。</p>	<p>(1) アイ・グローバル科2年生のCEFR B1以上:40%以上/B2以上:5%以上とする[30%/3%]。 ・普通科2年生のCEFR A2以上:98%以上/B1以上:10%以上とする[97%/7%]。</p> <p>(2) ア・「総合的な探究の時間(Link)」の公開発表会を年5回以上実施する[5回]。</p> <p>イオ・「総合的な探究の時間」、教科における「探究的学習」とその形成的評価、教科の枠を超えた学びに関する教員研修を実施。 ウ・海外研修については事前研修を充実させ、実施後の成果発表を文化祭で行い、学校全体や社会に開かれた活動とする。</p> <p>エ・ICT活用に向けた教員研修の実施・好事例の共有等、組織的な取組みを推進する。</p> <p>(3) ア・留学生との交流会を実施。留学生の思い・冒険心に触れ、探究学習の成果を英語でプレゼンテーション、ディスカッションするプログラムを開発する。</p> <p>イ・プロジェクトベースの学習活動、アントレプレナーシップ研修、発展途上国でSDGsの課題と出会い、問題解決に向けて探究学習を深める等、生徒のグローバルマインドセット・グロスマインドセット変容に資する学びを企画・立案・実施する。学識経験者・大学院生等TAも活用する。新型コロナウイルス感染拡大時は、国内で同等プログラムを実施する。</p>	<p>(1) アイ・グローバル科2年生のCEFR B1以上:62%/B2以上:6%で、目標以上。(◎) ・普通科2年生のCEFR A B1以上:27%で、目標以上。(◎)</p> <p>(2) ア・「総合的な探究の時間(Link)」公開発表会年5回実施で概ね達成。(○)</p> <p>イオ・3回実施で概ね達成。(○)</p> <p>ウ・海外研修は今年も実施できなかった。10月実施の沖縄修学旅行では、SDGsの視点も踏まえた探究学習を行いクラス発表・学年発表を行った。概ね達成。(○)</p> <p>エ・オンライン学習企画委員会によるICT活用に向けた校内研修や相互研究授業はミニ研修を含め23回、好事例も教育センターに提供し、目標以上(◎)</p> <p>(3) ア・大阪大学・関西学院大学・立命館大学に留学生の派遣を依頼したがコロナ禍で実現しなかった。当初予定したプログラムがコロナ禍でできなかったため、1月に留学生と会話は英語のみで巡る立命館大学いばらきキャンパス見学会のプログラムを企画し、実施できた。コロナ禍のなか、概ね達成。(○)</p> <p>イ・新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できず。代替案として国内留学プログラムを7月に実施した。(一)</p> <p>MINOH ENGLISH VILLAGE、海外大学進学交流会、海外大学進学説明会等、コロナ禍で制限のあるなか、生徒のグローバルマインドセット・グロスマインドセット変容に資する学びを企画・立案・実施した。海外研修を実施できなかったが、校内で、NET2名と英語科教員によるオールイングリッシュでのアントレプレナーシップ・PBL・プレゼンテーションのワークを実施、海外大学進学交流会、海外大学進学説明会で海外大学に在籍する卒業生との交流、ベルギーとオンラインで結び進学に関する交流など様々なプログラム開発で生徒の変容が見られ、海外研修と同等プログラムを実施できたと判断する。概ね達成。(○)</p>
<p>3 「自主自律」「和親協力」の心をはぐくみ、豊かな人間性を涵養する学校づくり</p>	<p>(1) 安全で安心な学びの場づくりの推進。 ア 生徒が相談しやすい環境づくりの促進。 イ いじめの未然防止、早期発見、組織的対応。 ウ 実行性のある危機管理体制の確立。</p> <p>エ 食物アレルギー等に係る事故防止。 オ <u>新型コロナ対応</u></p> <p>(2) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立。 ア 生活習慣の定着。</p> <p>イ 自主的な活動の推進。 ウ 教職員の働き方改革をふまえた生徒の自主活動や部活動の実現。 (3) イ 情報発信の充実。</p>	<p>(1) ア・教員とSCの協力のもと、全教職員で教育相談を充実させ、生徒が相談しやすい環境づくりを促進する。 イ・いじめを根絶すべき最重要課題と認識し、未然防止、早期発見、早期発見に組織的に取り組む。 ウ・実効性のあるマニュアルとなるよう点検・見直しを行い、<u>自然災害等に備えた体制の確立</u>を図る。</p> <p>エ・食物アレルギーの事故は、いつ、どこでも起きるものと想定し、すべての教職員が緊急時に対応できるよう、校内研修等の充実を図る。 オ・<u>4観点に即した取組みを</u>実践する。</p> <p>(2) ア・生徒会を中心とし、生徒主体の部活動・行事運営に関して、より発展的でシステム化された取組みを検討する。</p> <p>イウ・「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿い、学習と部活のバランス及び教員の働き方と生徒の活動のバランスをとりながら成果をあげる。</p> <p>(3) イ・ホームページによる組織的な情報発信及び地域や教育産業等を通じた学校説明会を実施するなど、情報発信を丁寧かつ継続的に行う。</p>	<p>(1) ア・学校独自のSC相談を5回以上確保し、自己診断「教育相談」(生徒)の「肯定的評価」67%以上[64%]。 イ・自己診断「いじめ対応」(生徒)の「肯定的評価」88%以上[85%]。 ウ・自己診断「災害時の情報提供」(生徒)の「肯定的評価」67%以上[64%]。 エ・食物アレルギー対応委員会を中心に、校内研修を年2回実施し、食物アレルギー等に係る事故防止に努める。[2回] オ・<u>健康観察の継続、オンライン学習の組織的対応、人権意識の向上に努める。</u></p> <p>(2) ア・教員と生徒会の協力による生活規律の改善。遅刻者数4,500名以下[6,372名]。 イウ・生徒会・行事における生徒の自主性を育み、教員のファンリテーション力を強化する。自己診断「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」の「肯定的評価」84%以上[81%]。 (3) イ・HP更新回数100回以上の継続。地域や教育産業を通じた学校説明会の15回以上実施を継続する。 ・本校学校説明会・見学会のべ参加者を2500名以上とする[1900名]。</p>	<p>(1) ア・学校独自のSC相談を21回実施(◎) ・自己診断「教育相談」(生徒)の肯定感68%(○) イ・自己診断「いじめ対応」(生徒)の肯定感89%(○) ウ・自己診断「災害時の情報提供」(生徒)の肯定感56%(△) コロナ禍で通常の避難訓練が出来なかったことによると考えられる。 エ・2回実施した。(○)</p> <p>オ・1限目目の健康観察時間を継続実施、臨時休業時のオンライン学習を実施した。③(○) 自己診断「命の大切さや社会のルール等について学ぶ機会がある」(生徒)の肯定感83%、「人権について学ぶ機会がある」(生徒)の肯定感90%と高い生徒評価が見られたので当初の目標が図られたと判断する。 (2) ア・遅刻数は7,440名で大幅増。(△)うち約35%が朝の健康観察時間帯に遅刻してくる生徒なので、健康観察は授業同様に大切であることを理解させるように引き続き努める。 イウ・91%で、目標以上。(◎)</p> <p>(3) イ・[247回/16回](○)。 ・コロナ禍のなか、2回の対面での説明会及びクラブ見学会を実施したこともあり3156名で、目標以上。(◎)</p>

府立箕面高等学校

<p>4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み</p>	<p>(1) 教科会議・相互授業見学の充実・経験年数の少ない教員研修の充実、学校組織力の向上。</p> <p>(2) 「働き方改革」の推進</p> <p>(3) 開かれた学校づくり。 ア 個人情報の適正管理・学校会計事務の適正化。 イ 学校説明会・見学会、学校情報発信の充実。</p> <p>ウ 地域と連携した事業の展開、地域とともに成長する学校づくり。</p>	<p>(1) 教科会議を授業力向上及び生徒の希望する進路実現のための研修の場として位置付けるとともに、積極的に研究授業を行うことで、教科としての授業力向上を図る。 ・テーマを立てた相互授業見学や外部の教員研修・講習会に参加する等、教員の授業力向上を図る。</p> <p>・個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担を行うことで、チーム箕面・オール箕面で学校運営を推進する。</p> <p>(2) 安全衛生委員会と連携し、教職員の安全及び健康の保持、ならびに快適な職場環境の整備・促進に努める。</p> <p>(3) ア・規則・マニュアルに基づき適正に処理し、生徒購入物品の代金引換や後払いの徹底に努める。 イ・学校説明会・見学会の積極的实施及び本校ホームページを活用した最新の学校情報の発信に努める。</p> <p>ウ・地域と連携した事業の展開を図り、地域とともに成長する学校をめざす。</p>	<p>(1) 自己診断「各教科において、指導方法の工夫・改善に努めている」の「肯定的評価」88%以上 [85%]。 ・全教科で研究授業年1回以上を維持 [1回]。 ・相互授業見学教員一人当たり平均3回以上 [3回]。</p> <p>・自己診断「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。」肯定的評価71%以上 [68%]。</p> <p>(2) ストレスチェックによる「健康総合リスク」の値を、府立学校平均以下を継続する [92]。 ・自己診断「気軽に相談しあえる人間関係ができています」の「肯定的評価」82%以上 [79%]。</p> <p>(3) ア・学校会計事務の適正化に係る自己診断の適切な実施。 イ・HP 更新回数の100回以上の継続及び自己診断「教育情報の提供」(保護者)の「肯定的評価」89%以上 [86%]。 ・HP のアクセス数を15,000以上とする [13,000]。</p> <p>ウ・箕面市の施策に協力する等、箕面市との連携を深める。</p>	<p>(1) 自己診断「各教科において、指導方法の工夫・改善に努めている」の「肯定的評価」91%で、目標以上。(◎) ・全教科で研究授業年1回。(○) ・相互授業見学教員一人当たり平均3回。(○) ・自己診断「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。」肯定的評価82%で、目標以上。(◎)</p> <p>(2) ストレスチェックによる健康総合リスクは88(教育庁102)で、目標以上。(◎) ・自己診断「気軽に相談しあえる人間関係ができています」の「肯定的評価」76%で目標に達していない。(△) ストレスチェックでは上司・同僚の支援が高く、リスクは92と平均を大きく上回り同僚性の高さが伺えた。そのなかで肯定的評価が76%であった原因を探っていきたい。予想されるのは、多忙化で相談できる機会や余裕がなかなか見つからないことが考えられる。 (3) ア・事務室と連携し適切に実施している。(○) イ・HP 更新回数は247回で目標以上(◎) ・自己診断「教育情報の提供」(保護者)の「肯定的評価」62%で、目標に達していない。原因を分析する。(△) 保護者のホームページ閲覧が60.2%だったので、保護者への情報発信ツールの有効活用が十分できていなかったと判断する。来年度は、更なる改善をする。 ウ・コロナ禍のなか、箕面市立文化芸術劇場開幕行事への協力、子ども未来創造局保健スポーツ室への協力等、箕面市との連携を深めている。(○)</p>
---------------------------------------	---	--	--	---